岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

シュミレータおよびコンピュータグラフィクスを用いた犬臨床教育訓練システムの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 丸尾, 幸嗣 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/715

はじめに

本プロジェクトが採択された要因として、平成13年2月に起こった東京農工大学の動物愛護団体活動家による家畜解剖学実習の妨害事件、国内外から指摘され獣医系大学再編運動に発展した獣医臨床実践教育の不足、大学附属動物病院の施設設備の充実に対する関心に較べて外科実習を始めとする臨床実習体制の立ち遅れ、が時機を得たものと考える。一方、社会背景として動物実験3R思想の普及に伴う致死実習の制限、大学内の実状として実習動物の飼育管理施設の不備と生体実習までの導入教育システムの不足が一部の学生から指摘されている。

臨床実践教育（特に外科実習）をどのようにして改善していくか?
最小限の致死実習で最大限の効果を発揮させるにはどうすれば良いのか?

これらの疑問に対する解答の一つとして代替モデルの活用、開発がある。代替モデルの開発というと誤解されるのは、動物実験反対、すなわち生体実習を否定されるのですか、という質問である。そうではなく、臨床教育の改善が第一の目的であり、そのためにどのような方策があるかということである。

このような視点に立って、本プロジェクトは以下の検討を行った。

1. 現在入手できる代替モデルのリストアップと有用性
2. 手術手技トレーニング用代替モデルであるDASIEの実習への使用とアンケート調査
3. 代替モデルの開発
4. 代替モデルの臨床実習における位置づけ
5. 将来に向かっての臨床教育の理想像

言うまでもなく本プロジェクトの主眼は3.の代替モデルの開発である。開始時点では、犬シミュレータ、コンピュータグラフィクス（CG）教材、バーチャルリアリティー（VR）教材の開発をめざしたが、VR教材の開発はその基礎的検討が不足している現状から実用化を断念した。また、代替モデルの臨床実習における位置づけを考える過程で臨床教育全体を俯瞰せざるを得ず、その結果臨床教育充実のための今後の努力目標についても触れた。

これらの成果報告書をまとめるにあたって、研究の推進にご尽力いただいた研究分担者全員に深謝する。なお、次のステップとしてこれらの成果が実際の実習に試用され、臨床実践教育の改善を実現するという課題を提起していることを明記したい。

最後に、本プロジェクトの申請のきっかけをつくっていただいた慶応義塾大学名誉教授前島一淑先生に深謝する。

（関連資料　岐阜新聞　動物実験に獣医苦悩　2002 年 9 月 21 日）